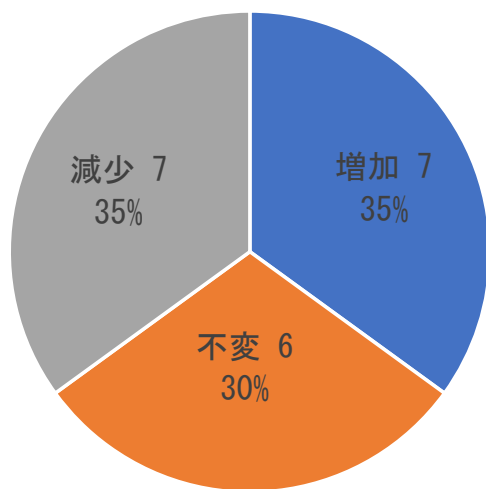


令和7年度景況調査

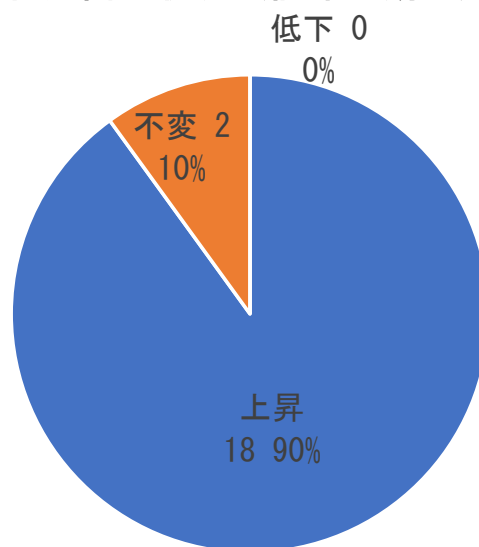
第一四半期(4月～6月)

①調査結果（その1）

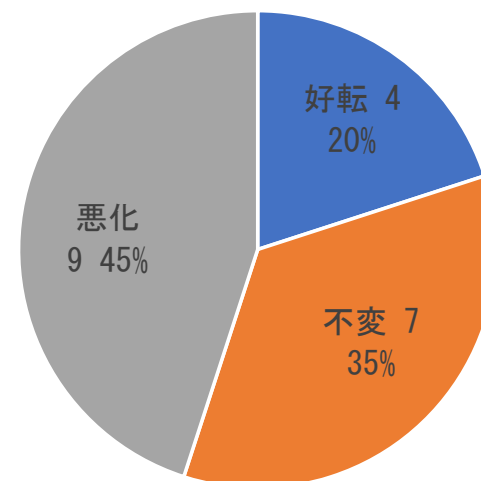
売上高の状況（前年同期比）



仕入高の状況（前年同期比）

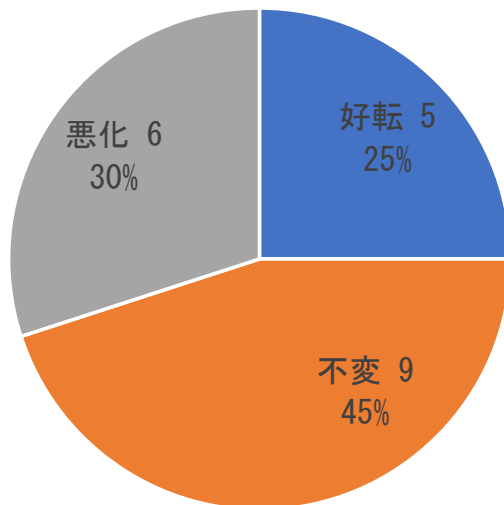


経常利益の状況（前年同期比）

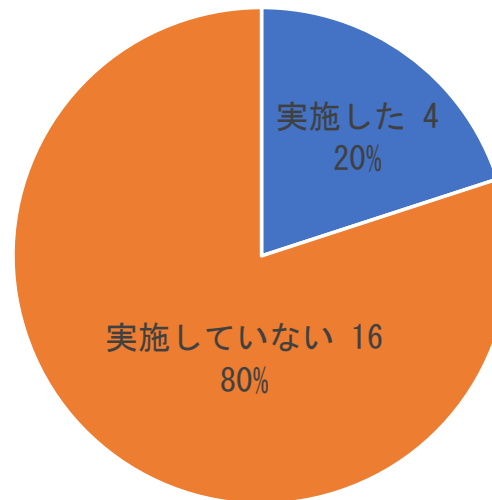


①調査結果（その2）

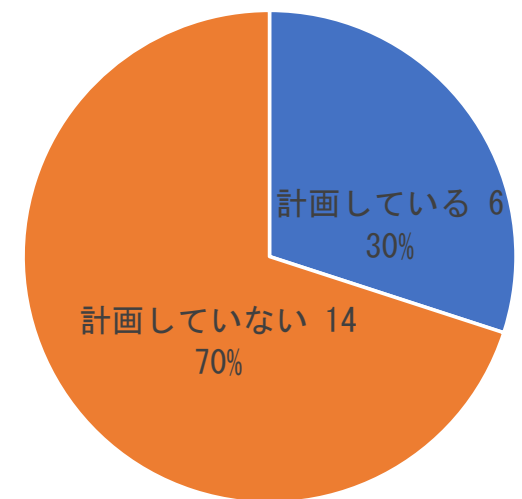
自社の業況（前年同期比）



設備投資の実施（今期）



設備投資の実施（来期）



②分析結果

- 売上高については、20社のうち7社が前年同時期と比較して「増加した」と回答した一方、同数の7社が「減少した」と回答しています。景気は緩やかに回復しているものの、物価上昇の影響で個人消費が低調であることなどから二極化しています。
- 仕入高については、全体の90%の事業所が前年同時期と比較して「上昇した」と回答しています。経常利益についても前年同時期と比較して全体の45%が「悪化した」、35%が「不変」と回答しており、度重なる物価や燃料費の高騰により利益を圧迫していることが窺えます。
- 設備投資については、全体の20%の事業所が今年の4－6月期で実施したと回答しています。また、来期の設備投資については全体の30%が機械設備などの導入を計画しています。今後利益確保をしていくためには販路開拓や業務改善等に取り組んでいく必要があります。商工会はこうした状況を踏まえながら、前向きな設備投資などについて、国や県、町の支援施策を有効活用しながら経営課題の解決に努めてまいります。